

## 平成20年度 優れた教育活動表彰

### 1 学校 (9校)

学 校 名	学校長氏名	表彰の理由
島根県立松江養護学校	勝部 真明	特別支援学校に通う子どもたちへの理解や子どもたちとその親を地域で支える人材の養成をめざし、高校生から一般までを対象に平成10年度から「サポーター養成講座」を開催している。講座は、講義以外にも車椅子体験や各学校の行事に参加して子どもたちと直接触れあうなど工夫され、受講者は毎年50名を超える。
島根県立松江清心養護学校	西 治	10年の実績を積み、講座修了者が中核となって公民館活動の中でも取り組まれるようになるなど支援の輪が着実に広がっている。
島根県立出雲養護学校(大田分教室)	江角 仁	平成17年に山陰では初めて既存の中中学校敷地内に養護学校分教室が設けられたことを契機に、県内で唯一養護学校の子どもたちと中学生との日常的な交流や共同学習に取り組んでいる。
大田市立第二中学校	林 弘延	内容は両校生徒が毎日一緒に行う分教室の掃除、昼休みの遊び、校内行事、部活動などの共同取り組みや特別支援学級生徒との英語学習など多岐にわたり、生徒同士の相互理解と互いの成長につながっている。
松江 <sup>あいか</sup> 市立秋鹿小学校	福田 郁子	松江市秋鹿地区出身の歌人・奥原碧雲に因み全校を上げて取り組む短歌づくり、特産品の「秋鹿味噌」づくり、伝統行事「おもつつあん」や相撲大会への参加など、地域の人々の暮らしや生き方に直接触れる「ふるさと教育」に平成17年から取り組み、子どもたちの中に郷土を愛する心が着実に育っている。
美郷町立邑智小学校	芦矢 修司	子どもたちが4、5日間をかけて地域で寝泊まりしながら郷土の歴史探訪や高齢者から昔の遊びを教わるなど様々な体験をする「長期宿泊体験学習」事業に平成18年から取り組んでいる。
		活動を通じて、学校と地域のつながりが深まり、子どもたちのコミュニケーション能力も向上するなどの効果が表れてきている。
益田市立吉田小学校	村上 伸悟	総合学習の中で、子どもたちが益田の様々な魅力を掘り起こし、ホームページで紹介したり、益田の食材をテーマにしたPRグッズを空港で配布するなど学習の成果を外部に積極的にアピールし、その評価をもとに学習を発展させる取り組みを行っている。こうした取材や発表を通じ国語の応用力育成などにつなげている。
		なお、活動を紹介したホームページは、総務大臣賞受賞など全国的にも高い評価を受けている。

隠岐の島町立布施 小学校及び布施中 学校	佐々木 正人	<p>旧布施村の時代から小学校と中学校の校舎が同一敷地内でつながっている特徴を生かし、平成14年度から県内では先駆的な小中一貫教育に取り組んでいる。</p> <p>共通の職員室の設置、授業の相互実施、9年間の一貫した計画に基づく総合学習の実施、学校行事や課外活動の一体化等により、児童・生徒の主体性、積極性が生まれ、学力の向上が図られつつある。</p>
----------------------------	--------	--

## 2 団 体 (2団体)

団 体 名	代表者職・氏名	表彰の理由
島根国語懇話会	松江市立第一 中学校校長 永島 典男	<p>小・中学校で国語教育に携わる教員により昭和32年に発足し、日々の指導の中から生ずる国語教育の諸問題を持ち寄って討議し、更に実践に生かす地道な取り組みを続けている。</p> <p>約50名の会員を擁し、昨年度からは「国語単元学習の実践～自己を見つめ、通じ合う力を育てる書くことの指導～」をテーマとするなど、時代ニーズに応える研究を心がけている。</p>
島根県国際理解 教育研究会	飯南町立頓原 小学校教頭 山口 修司	<p>国際理解教育や国際交流に関心を持つ小・中学校教員により平成7年に発足。異文化交流や国際理解に関する研修、授業研究等に取り組み、その成果を日々の指導に生かしている。</p> <p>200名余の会員が2地域、4部会に分かれて、それぞれに研修計画を立て、近年は「地球時代の学び」に視点をおき活動している。</p>

## 3 個 人 (5名)

氏 名	所属・職名	表彰の理由
はしもと しげる 橋本 繁	島根県立松江 農林高等学校 実習助手	<p>養牛、酪農、水田、造園など幅広い分野の指導技術を身につけ、農林高校の実技指導において中心的役割を果たしている。平成14年3月に退職後も再任用され、熟練した技術指導は生徒から大きな信頼を得ている。</p> <p>また、豊富な経験と技術を生かし、樹木管理など学校の環境整備に熱心に取り組み、環境美化に大きく貢献している。</p>
いしくら はじめ 石倉 始	斐川町立斐川 東中学校事務 リーダー	<p>県内市町村立小中学校の事務職員で構成される島根県公立小中学校事務職員研究会の会長及び副会長、全国公立小中学校事務職員研究会島根支部長を永年にわたって務め、県内はもとより全国の小中学校の事務改善や効率化等に取り組み、学校事務職員の資質の向上や職務の確立に大きく貢献している。</p>

<p>たかはし きょうこ 高橋 恭子</p>	<p>島根県立出雲商業高等学校教諭</p>	<p>小中高一貫美術科教育に関する教材の開発、版画・陶芸などを取り入れた特色ある美術教育に取り組むとともに、島根の版画文化の振興に努め、特に高校生の版画教育においては、指導を受けた生徒たちが「はんが甲子園」に毎年入賞し、2度の優勝を果たすなどめざましい成果を上げている。</p>
<p>ながの ひろし 長野 宏</p>	<p>島根県立松江南高等学校教諭</p>	<p>パソコンなど視聴覚機器を活用した数学教育に取り組み、自ら開発した教材ソフトを用いた授業の中で、分かりづらい問題を生徒たちに視覚的に簡潔・明快に理解させるなど成果を上げている。 また、研究の成果を県内外の研究大会で発表するなど、研究活動の交流も進めている。</p>
<p>おんだ けんじ 恩田 賢二</p>	<p>島根県立横田高等学校教諭</p>	<p>平成17年から横田高校の男子ホッケー部監督として、ホッケー競技の技術力向上と競技力の強化、地域への普及に努め、全国総体、国体における優勝など全国トップレベルのチームに育て上げてきた。 特に、本年度は全国総体、全国高校選抜、国体の3大会すべてにおいて優勝を飾る「3冠」、全国総体3連覇、国体2連覇の偉業を達成しており、その優れた指導力は高く評価できる。</p>